

竜南いのち守り隊 ～高めよう 地域力～



岡崎市立竜南中学校

竜南いのち守り隊

▶ 構成

岡崎市立竜南中学校 全教職員・生徒 計600名程度
中心は中学校3年生・教職員 計200名程度

▶ 活動

総合的な学習の時間や特別活動・夏休みなどを利用し、
主体的に活動に取り組むことができるようにする。

▶ 特徴

「つながり」を重視し、活動に巻き込むことができるようにしたい。

昨年度までの活動

- ▶ 2011年度 大河原町立金ヶ瀬中学校との交流スタート
ユネスコスクールに認定
- ▶ 2012年度 訪問活動と共同授業スタート
防災フェスタの開催
- ▶ 2013年度 防災共同授業を継続
防災フェスタを継続開催
生徒がかまどベンチ作成



学びの「ここがー押し」

- ▶ 地域を大切にし、
72時間生き延びるために
私たちができることを考える。
- ▶ すべての人に優しい防災を考える。
- ▶ 衣食住に分かれて防災学習を進める。
- ▶ 学習のまとめを地域に広める。
→地域力を高め、中学生を地域に。

そなエリア訪問



はじめの一步

防災オリエンテーション

岡崎市役所防災危機管理課の方をお招きして
大地震発生の危険性をお聞きした。

→ 切実感の芽を育てる。



ふれあいデー

小中学校が交流をし、ベルマーク収集

→ 被災した巨理町立荒浜中学校へ寄贈する準備。

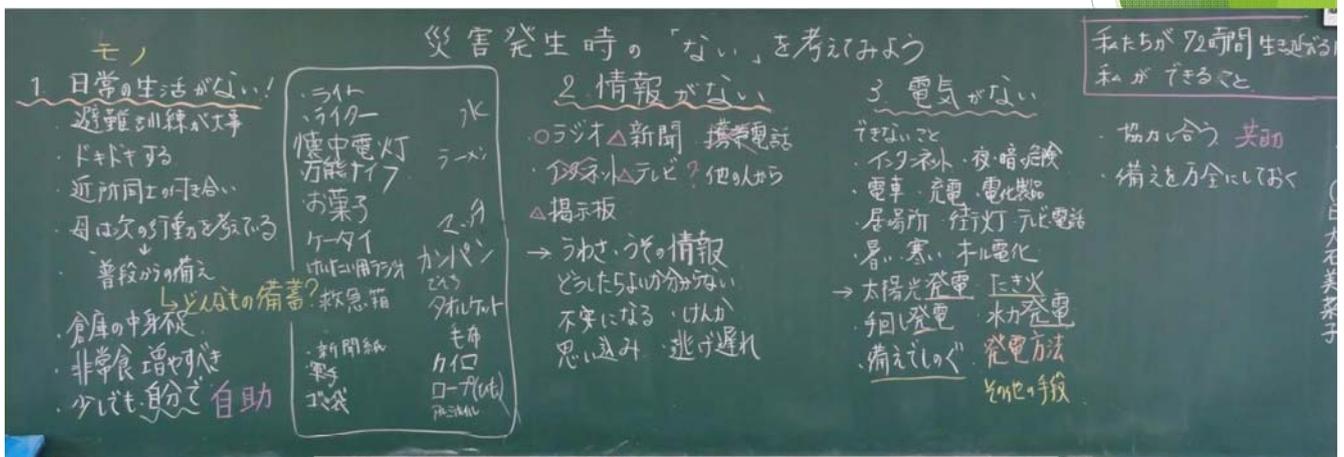
地域との協働



- ▶ 地域交流施設での「防災イベント」出展
 - 地域に対して、学校での学びの様子を伝え、理解を広めていく。
- ▶ 学区総代会との協働
 - 「高めよう地域力」をテーマに掲げ、「つながり」を感じられるような学校との連携を模索
- ▶ PTAとの協働
 - 文化祭において、「ふれあい出展」を企画

NPOとの協働学習

- ▶ 未来をつくるBOOKの提供・活用



東日本大震災を 振り返り 今をみつめ 対話する

未来をつくるBOOK



地域ボランティア等への参加

- ▶ 地域防災訓練への参加
 - ▶ 学区夏祭りボランティア
 - ▶ 高年者センター夏祭りボランティア
 - ▶ ふれあいコンサート
- 夏休みを利用して、防災だけでなく、地域との連携を高める活動に多数参加。
- ▶ アクサユネスコ協会減災教育プログラムに研修派遣
- また、学びの成果を伝える「ESDあいち・なごや子ども会議」へも参加。

東北訪問

- ▶ 交流のある「金ヶ瀬中学校」「荒浜中学校」「トマト農家」を訪問
- ▶ 継続して3年目になる。
- ▶ 大きな活動とせず、「持続可能な活動」のレベルで行うことで、続けることができている。
- ▶ 子どもたちは、自主参加だが、倍率は2倍程度になる。
- ▶ 学びを二学期に生かすだけでなく、活動自体に防災学習の価値をもたせるよう工夫。

①津波被災農地復興支援 ボランティア





②荒浜中学校訪問

- ▶ 津波被災後、同じ場所に再建。
- ▶ その理由や、防災上の工夫を見学させていただく
- ▶ 集めたベルマークを寄贈する



②荒浜中学校訪問



③金ヶ瀬中学校との共同授業

- ▶ 防災学習の絆を確認し、共同授業を行う。
- ▶ 「クロスロード」を活用し、東日本大震災での経験を踏まえた意見で話し合いを行った。



③金ヶ瀬中学校との共同授業

金ヶ瀬・竜南防災絆宣言

私たちはこれからも絆を大切にします

- ー 私たちは、文化祭等での絆を大切にします。
- ー 私たちはそれぞれの地域での絆を大切にします。
- ー 私たちは防災学習を深め、災害発生時に命と絆を大切に
する行動をとります。

平成26年8月28日

大河原町立金ヶ瀬中学校

岡崎市立竜南中学校

③金ヶ瀬中学校との共同授業



2学期の学びへ

- ▶ 東北訪問報告会で防災学習の高まりを共有
→キーワードが「地域力」であることを確信



防災マップ作り



先輩たちの学びを引き継いで
調査内容を決めました。



調査内容を分析し、
展示作品として完成させました。



D I G分析会

- ▶ 作った防災マップを基にして
- ▶ 避難経路を決める
- ▶ 自分の家の準備状況を考える
- ▶ 実際にそのルートを通ることができるかどうか調査
- ▶ 自分たちの備えに足りない点を再確認
- ▶ 自分たちにできることを考える

→この活動によって、「自分たちが地域のためにできることは何か」を考えることができるようになった。

竜南総合防災会議

- ▶ 「自分たちができること」を考えるようになり始めたが、「私たちの生活はどのように維持されているのか」を考えることはできていなかった。
- ▶ そこで、ライフラインに関する専門家をお招きし、それぞれのライフラインがどのように守られているのか、災害が発生した際にどのような状況になる可能性があるのかをお聞きした。
- ▶ その内容を持ちより、竜南総合防災会議を行った。

竜南総合防災会議



- ▶ 公助の役割と
- ▶ 自助・共助の重要性を
- ▶ 改めて学ぶ



消防署の方から



- ▶ あなたのいのちをあなたが守れば
ほかの一人を救うことができる

ここまでの学びの成果を 文化祭で発表・展示



「地域力（自助・共助）」を意識した チャレンジへ

1 教師 1 チャレンジによるカテゴリー学習

A	りゅうぼう食	防災食
B	りゅうぼうかるた・てぬぐい	かるた
C	りゅうぼうハート	見守り
D	りゅうぼうカレンダー	カレンダー
E	りゅうぼうぶくろ	持ち出し袋
F	りゅうぼうの知恵	知恵
G	りゅうぼうのいのち	救命
H	りゅうぼうのすみか	避難所

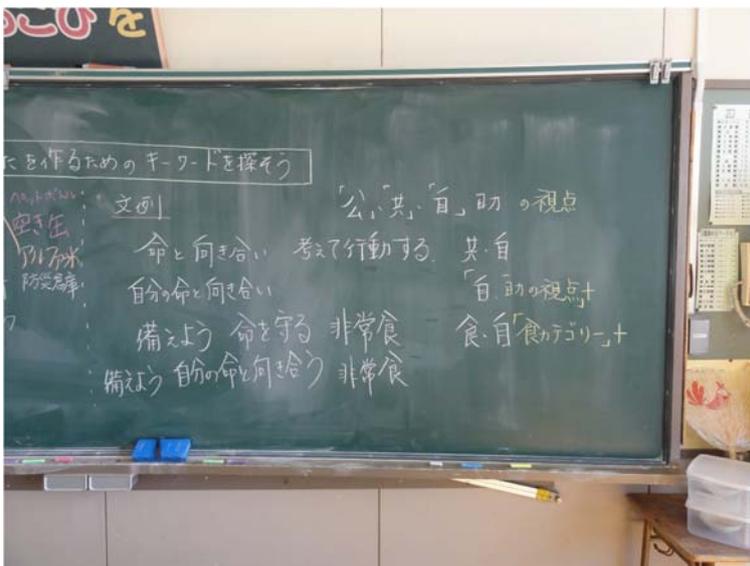
りゅうぼう食



- ▶ 家庭にある保存食を持ち寄り、レシピを考えて食について考える活動を行った。



りゅうぼうかるた



各カテゴリーのキーワードを集め、視点別に分けてかるたを作る。
さらに、学びのまとめを手拭いに印刷し配付



りゅうぼうハート



地域の独居お年寄りにアポを取り、訪問、防災学び合い。



りゅうぼうカレンダー

- ▶ 防災アイデアを持ち寄り、
日めくりカレンダーを作成
- ▶ 来年度の学びに
活用してもらう。



りゅうぼう袋

- ▶ 非常持ち出し袋の中身を再検討
- ▶ 私たちが考える
りゅうぼう袋を作成



りゅうぼうの知恵

- ▶ 様々な防災アイデアをまとめる。
- ▶ 実際に活用できるかどうか検討し、
資料を作成する。



りゅうぼうのいのち



- ▶ A E Dの使い方、救急救命の方法を学び、
- ▶ 受講者章を取得することで、いざというときに、行動できるようにする。



りゅうぼうのすみか

- ▶ H U Gを行いながら、
シミュレーションを深め、
- ▶ 体育館を避難所に見立てて、
そのレイアウトや
役割分担の方法を学び、
- ▶ 自分たちにできることを考えていく。



竜南防災教育モデル

- ▶ この1教師1チャレンジを「竜南防災教育モデル」として蓄積する。
- 教師の異動があったとしても、学びを進めることができるような指針作りとした。

今年度のまとめに

- 「防災フェスタ」での開かれた学校づくり
- 学びのまとめとして行う防災フェスタに地域の方をお招きする。

成果と課題

- ▶ 社会の実態を学ぶことで、自分の立場を明確にすることができ、「持続可能な地域社会の実現」に向けて、「自分ができること」を考えて行動することができるようになった。
- ▶ 「切実感」を高めることが「課題意識の高揚」には不可欠であり、「課題意識の高揚」を持続させるには「単元を貫く課題」の設定が不可欠であることが分かった。
- ▶ 「人」「コト」「モノ」に出会うことで、自分の言葉に責任感と自信が湧き、この思いと、「地域を大切にする心」が行動化へと大きく前進させるものになることが分かった。
- ▶ クロスカリキュラムを導入し、多様な教科・領域で単元を貫く課題を学ぶことで、多面的・多角的な思考を得る一助となることが分かった。また、時間数を有効に活用することにもつながった。
- ▶ 1教師1チャレンジによる「竜南防災教育モデル」づくりにより、教員に異動等があったとしても、学びの小単元を踏んでいくことで、誰もが同じ教育効果をめざすことができるようになった。

今後とも、
ご指導・ご支援
よろしくお願いいたします。